



# Chunk(意味のまとまり)指導について

東京都 I.T.

## Chunk指導...音読の次の活動として

最近、音読の重要性が再認識されてきています。しかし音読をしている時に生徒は意味内容を認識しているでしょうか。特にSlow learnerは意味内容を認識せずに音読しているように思います。音読と共に意味内容も学習できる指導をし、既習の英語を定着させることができたら、かなり英語力がつくだろうと考えました。それがChunk指導です。

Chunkとは1つの文の中での「意味のまとまり(sense group)」を示します。以下のようにスラッシュ(/)で区切られた語句のまとまりがChunkになります。

(例) Most of us / will have some job / in the future. (NEW CROWN 2, Lesson 7, p.46より)

Michael Lewisは、著書*Implementing the Lexical Approach*(Language Teaching Publications)で、Collocation(語と語のつながり、結びつき)指導の効果について、実際の指導例を挙げながら説明しています。Collocationは形容詞+名詞、動詞+目的語、動詞+副詞など、いくつかの種類に分けられます。ことばを学習する際、単語を1語ずつ学習するよりもCollocationも含め、意味のまとまり(sense group)で学習した方が記憶に残りやすいとLewisは言っています。ここに発想を得て、文を意味のまとまり、つまりChunkに区切って英語の学習を試みるものがChunk指導です。

## Chunk指導のきっかけ

(1) その1「Phrase Reading(/ Slash Reading)」前年度、中学3年生の授業で1学期の間Phrase Reading(/ Slash Reading)を次のように重点的に指導しました。

新出語句の指導をする。

教科書本文のPhraseにSlash(/)を入れさ

せてみる。

教科書準拠のCDを聞かせて、自分の区切ったPhraseと比較させる。

音読指導と同時にPhrase = Slash(/)の確認。意味内容が難しい時には確認する。

再度、黙読。

以下のアンケート結果にあるように、Phrase Reading(/ Slash Reading)を支持する生徒は多かったのですが、意味内容を確認する時に既習の語彙でもきちんと意味内容を理解していないことがあり、語彙力のない生徒やChunkを区切れない生徒にはあまり効果的ではないと思いました。1, 2年生の音読指導の大切さと同時に語彙をきちんと定着させることの重要性に改めて気づきました。

(1学期末のアンケート結果)

Phrase Reading (/ Slash Reading)は英語を読むのに役に立ちますか。		
ア	Yes.	49%
イ	どちらかと言えばYes.	40%
		計 89%の支持
ウ	どちらかと言えばNo.	5%
エ	No.	6%
		計 11%の不支持

### ア・イの理由

- \* どこで区切れればいいかわかる。
- \* 意味のまとまりをつかみやすい。
- \* 単語の内容がわかりやすい。
- \* 発音が上手くなるような気がする。
- \* 呼吸する所などがわかるから。
- \* 意味を考えながら、/をつけるから。
- \* 後で音読する時に楽だから。
- \* 長い文での区切りがわかる。

### ウ・エの理由

- \* どこに/を入れるかわからない。
- \* あまり/を意識しないから。

## (2) その2「中嶋洋一先生の授業と著作より」

富山県砺波市立出町中学校（当時）の中嶋洋一先生の授業をビデオで拝見したとき、生徒が授業前からペアで何かを練習していました。それがChunk指導であり、とても印象的でした。『英語好きにする授業マネジメント30の技』（中嶋洋一著、明治図書）も参考にしました。

## (3) その3「斎藤朝子先生の授業で」

東京都三鷹市立第七中学校（当時）の斎藤朝子先生の授業を見せていただく機会がありました。授業が始まる前から、生徒が何かをぶつぶつ言っていました。授業が始まり、それが教科書の新出語句の復習であることがわかりました。ペアになり、前時に習った語句の英語とそれに当たる日本語を言う活動だったのです。生徒たちが活動に集中し、また楽しそうに行っていたのがとても印象深く、自分のChunk指導にもこのようなペアの活動を取り入れたいと思いました。

### 実際のChunk指導

1学期に行ったPhrase Reading（/ Slash Reading）の経験から、教科書の文をスラッシュで区切るという作業は生徒にとって難易度が高いことがわかりました。そこであらかじめChunkに分けたワークシートを用意しておくことにしました。そして次のようにChunk指導のねらいを考えました

ねらい：

教科書を元にしたChunkにより、VocabularyをRecyclingし、Inputする。それにより、Speaking, Listening, Reading, Writingにつなげることをねらう。

つまり音読を発展させた活動として、Chunkを授業に位置づけることにしました。（Chunkのhandout例はp.4を参照）

#### (1)教材作成について

B5版の用紙の左半分に英語、右半分に日本語を配置する。

教科書に出てくる英語の順にChunkに分け、それぞれに通し番号をつける。

練習する価値のない英語（すでに言えるような英語など）はカットする。4ページの

Handout例では、1行目のHello, friends. またはThank you. など。

#### (2)授業での指導内容

教科書1ページの音読指導が終わってから、ChunkのHandoutを渡し、英語と日本語を確認させる。（約1～2分間）

ペアでジャンケンさせ、勝った方がHandoutを見ながら、1から順番に日本語を言う。負けた方はそれに当たる英語を言う。言えなかった英語はパスしてもよいことを事前に伝える。

英語の分量に合う制限時間を教師が設定し伝える。私の場合は1 Turn（1つのNo.）を5秒で計算した。No.1～No.15ならば、 $15 \times 5 \text{秒} = 75 \text{秒}$ （約1分15秒）となる。

開始する。クッキング・タイマーなどで時間を計るとよい。

時間が来たら、ストップさせる。全て言えた生徒がいるか、手を挙げさせる。

言えなかった英語(No.)に印をつけさせる。

交代して、～を行う。

次の授業でも行うので、家で練習してくるように言う。特に言えなかった英語(No.)を重点的に練習するように言う。

以上で約5分。

バリエーション：

(1)番号順に言わないで、ランダムに日本語を言い、それに合う英語を言う。

(2)英語を言い、それに合う日本語を言う。

(3)各レッスンのまとめにそのレッスンの全てのページを行う。

生徒の反応

2学期末からChunk指導を中学1年生と2年生に行い、3学期の途中で生徒にChunk指導についてアンケートに答えてもらいました。その結果から次のようなことが考えられます。

・母語を介した外国語学習のため、語彙、語句などの意味内容が理解しやすく、Chunkにより語と語のつながりや決まった言い方を覚えやすい。

・ペア学習のため、お互いに助け合うCo-operative Learningになりえる。

## Chunks(意味のまとまり)アンケート調査

1年22人, 2年30人 (2001.2.8.)

以下のア～エから選び をつけ、それを選んだ「理由」を簡単に書いてください。

### Q1 Chunks(意味のまとまり)は英語の勉強に役立ちますか。

ア Yes.	1年 男 80%	女 67%	計 73%	2年 男 59%	女 92%	計 73%
イ どちらかと言えばYes.	1年 男 20%	女 33%	計 27%	2年 男 35%	女 8%	計 23%
ウ どちらかと言えばNo.	1年 男 0	女 0	計 0	2年 男 6%	女 0	計 4%
エ No.	1年 男 0	女 0	計 0	2年 男 0	女 0	計 0

#### 【ア・イの理由】

- \* 単語の意味と話の内容がいつべんに覚えられる。
- \* まとまりずつ短くなっていると単語などが覚えやすくなる。
- \* わからなくても隣に日本語が書いてあるから。
- \* たまに会話の時に思い出すと使える。
- \* 先生と話す時に使える。
- \* 全部言いたいと思うとたくさん練習するから勉強になる。

#### 【ウの理由】

- \* プリントや教科書でも意味はわかると思うし。

### Q2 家ではどのようにChunks(意味のまとまり)の練習をしていますか。

- \* 親に日本語を言ってもらう。
- \* 線の所で半分に折って、どちらかの面を見て、英語または意味を言う。

### Q3 Chunksを改善するには何を換えればいいと思いますか。

- \* 文を短くする。
- \* あまり意味を区切りすぎるとわけがわからなくなる。
- \* ペアの相手がしっかりやり、自分もしっかりやれば楽しく覚えられると思う。
- \* 教科書の音読をしっかりとってからChunkをやりたい。やらないと違う発音、読み方で覚えてしまう時があるから。



・日本語に当たる英語(英語に当たる日本語)を言うという具体的な目標なので、達成感がある。

生徒たちは、音読の後にChunk読みが控えているので音読をしっかりやっておく、ということが意識的になると同時に、(日本語で意味を出すことについての是非はありますが)ペア活動によるChunk読みによって意味内容を実際につかんでいるのではないかと感じています。

#### 課題

教材作成の段階で、Chunkをどのように分けるか判断に迷うときが何度もあります。音声化した時に言いやすいだろうか、決まり文句として扱った方がいいだろうか、などという英語の問題です。また、英語の語順に近い日本語の意

味がいいのかそれとも自然な日本語がいいのか、その教科書の内容に合った日本語かそれとも一般化できる日本語の方がいいのか、という日本語の問題もあります。また、授業では音読指導が大切になるので、どのように音読指導の時間を確保し、かつ生徒を飽かさせないようにするか。または、生徒の人間関係を的確に把握し英語科教室を作り英語授業用座席を編成する際、いかに適切にペアを組むか、といった課題もあります。

さらに「ねらい」で書いたようにChunk指導をSpeaking, Listening, Reading, Writingにいかにつなげていくか。そしてChunk指導が実際に効果があったか調査し、その結果をどのようにとらえるかを今後の課題としたいと思います。

**NEW CROWN, BOOK 2, Lesson 7 (p.46), Speech ' My Dream '**  
**Chunks (意味のまとめり) for the 2nd year students**

- \* Speaking, Listening, Reading, Vocabulary の勉強に活かしましょう。
- \* できなかった No. に印をつけて, そこを何度も練習しましょう。
- \* ランダムに選んで, 出し合ひましょう。

- |                                 |                   |
|---------------------------------|-------------------|
| 1. Most of us                   | 1. 私たちの大部分は       |
| 2. will have some job           | 2. 持つでしょう 何か仕事を   |
| 3. in the future.               | 3. 将来。            |
| 4. Some of us                   | 4. 私たちの何人かは       |
| 5. will work                    | 5. 働くでしょう         |
| 6. in offices.                  | 6. 会社で。           |
| 7. Some will go                 | 7. 何人かは行くでしょう     |
| 8. to the moon                  | 8. 月へ             |
| 9. as astronauts.               | 9. 宇宙飛行士として。      |
| 10. Others will work            | 10. 他の人は働くでしょう    |
| 11. to take care of old people. | 11. 老人の世話をするために。  |
| 12. Today                       | 12. 今日は           |
| 13. I'm going to tell you       | 13. 私は話すつもりです皆さんに |
| 14. about my dream              | 14. 私の夢について       |
| 15. for the future.             | 15. 将来に向けて。       |